

令和6年度事業報告

事業概要

近年、シルバー人材センター事業を取り巻く環境は、少子高齢化に伴い労働力不足が加速し社会問題とされている中、新規入会者数の伸び悩みを見せているのが現状です。また、高年齢者雇用安定法の改定により「継続雇用制度」が義務化されたことで、会員となり得る高齢者が現役で活躍される割合が増加し、新規入会者数は一層伸び悩みするのではと懸念されています。

このような状況の中、2024年度は公益目的事業の実現を目指し、会員数の増強、受託事業収益の増加、労働者派遣事業及び職業紹介事業による会員への就業提供の拡大、並びに安全・適正就業への徹底を重点に事業を行いました。その結果、受託事業収益では前年度比で5,728,102円の増額と会員数においては前年度比7名の増加を達成することができました。

事業実績報告

事業計画に基づき、以下の事業を実施しました。

(1) 会員の確保、増強

会員による1会員1人紹介運動を展開させると同時に、役職員によるチラシ配布による普及活動の他、新聞媒体等への事業記事掲載を進めながらシルバー事業の魅力発信に努めました。

- ・前年度比7人の増員となりました。
- ・年度末会員数 189人（男性125人、女性64人）
（前年度対比7人の増員 内訳：男性0人減、女性7人増）

(2) 就業機会の確保と提供

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの受託事業及び派遣事業実績は以下のとおりです。

		(前年度実績)
1. 会 員 数	189人	(182人)
2. 受託事業件数	1,755件	(1,866件)
派遣事業件数	126件	(132件)
3. 受託就業延人員	13,972人	(13,293人)
派遣受託延人員	1,870人	(2,017人)
4. 受託契約金額	69,504,657円	(63,776,555円)
派遣契約金額	15,019,971円	(16,502,982円)

事業実施報告

1. 就業機会提供事業

(1) 就業機会の提供

高年齢者にふさわしい臨時的かつ短期的な仕事を一般家庭、民間企業、官公庁等から請負により引き受け、希望する会員に対し就業機会の提供に努めました。今年度は、冬期の大雪による除雪依頼が殺到したことで、除雪関連での前年度比は215.8%の伸びとなりました。しかしながら、限られた会員数で対応しきれず途中で受注受付を打ち切ったこともあり、市民の要望に応えられなかったことで責任感を覚える状況にあります。

受託事業実績の受注件数では、前年度対比111件の減、就業延人員では679人の増となりました。また、契約金額でも前年度対比8.9%増の約572万円の増額となりました。

(2) 労働者派遣事業

前年度より受注件数の落ち込みがあり、そのため新規受注及び発注者の掘り起こしを行うと共に、登録人員の拡大及び派遣先の確保を推進しましたが、新たな契約は叶いませんでした。また、既存の受注については、臨時的かつ短期的な業務に係る派遣労働者又はその他の軽易な業務に係る派遣労働を希望する会員を対象に労働者派遣事業を行いました。

派遣事業実績は、前年度に比べ件数では6件の減、就業延人員では、147人の減となりました。また、契約金額は15,019,971円となり前年度対比91.0%にとどまり前年度対比では約148万円の減額となりました。

2. 就業機会確保事業

(1) 安全・適正就業対策推進事業

安全対策については、事故撲滅を第一目標に掲げ安全就業に努めましたが、傷害事故2件、損害賠償事故2件が発生しました。

事故を増やさないよう常に声掛けや、事務局だよりによる事故例などについて掲載し注意喚起も行いました。起きた事故を調査分析し来期の事故撲滅に繋げていきます。

適正就業対策推進事業については、就業への適正化と公平化を図るとともに、適正就業ガイドラインに沿った事業運営に努め会員及び発注者から信頼される事業を展開させました。

(2) 普及啓発事業

春は、黒石さくらまつり開催に先立ち東公園内の清掃奉仕活動を行うことで、普及啓発と地域貢献に努めました。また、秋には「シルバーの日」を活用し、駅前公園を清掃するとともに、役員によるチラシ配布や近隣住宅へのポスティングを行い、シルバー人材センター事業の理解と普及啓発に努めました。さらに、秋に開催された「黒石りんごまつり」へ2日間に渡り参加し、ポスターの掲示・作品の展示を活用しながら、来場者へのチラシ配布などを通じて普及啓発に努めました。また、今年度はe-スポーツの機材を連合会より借受けブース内で実施したところ、シルバー世代から幼稚園児に至るまで大勢の方に参加いただき、体を動かす喜びを楽しまれていました。

(3) 福祉・家事援助サービス事業

高齢者世帯などの手助けを必要とする発注者に対して、安心と信頼をもって依頼していただくために、毎月1回会員が主体となってコミュニケーションスキルを高め、就業に対するスキルアップをはかりながら、日常生活で困っている物事に対し、会員が迅速に駆けつけ、対応あるいは判断することでシルバー人材センターの価値を高める活動を展開させました。

(4) 会員数拡大の強化

センターの根幹である会員数の増強を最重要課題に掲げ、会員数の増強をはかるため、会員・役職員が一丸となり「一会員一人獲得運動」の展開と、新規会員紹介に伴う会費割引制度の導入を図り6名の紹介があり、結果前年度比7名の増加となりました。また、加齢や病気等の理由により、退会者が増加することを回避するためにゴールド会員への移行を進め抑制に努めました。

(5) デジタル化対応の強化

高齢者が避けがちなデジタル化へ取り組むため、スマートフォンの利用状況のための調査を実施し、約40%と低い結果であることから、スマホへの切り替え促進のためのスマホ教室を予定しましたが、繁忙期や冬期就業の見通しが立たなかったため、実施することが出来ませんでした。